

リスボン大地震―近代ヨーロッパの社会的震撼

永治日出雄

まえがき

歴史におけるリスボン大地震 リスボン大地震と現代

まえがき

歴史におけるリスボン大地震 リスボン大地震と現代

一七五五年十一月一日ポルトガル王国の首都リスボンを巨大地震が直撃した。この地震はイベリア半島のほぼ全域を揺がし、北アフリカやフランスでも強い震動が、また遠くスウェーデンやアイルランドでも津波が観測される。リスボンにおける未曾有の災害はいち早くヨーロッパ各国に伝えられ、知識人や文筆家の関心を惹いて、ヴォルテール対ルソーの有名な地震論争を誘発した。

アメリカの著名な地震学者チャールズ・リヒターは主著『基礎地震学』のなかでリスボン大地震をつぎのように位置づけている。「一七五五年十一月一日のリスボン地震は、我々が科学的な記述をなすうる最初の地震事象のひとつである。これほどの大震災は西ヨーロッパにおいて稀有であって、世人の関心と科学的関心が熾烈に喚起され、多大の報告も遺されている。」リスボン大地震はヨーロッパの思想や文学へ深い影響を及ぼした。「文明という人間の所産を攻撃する小冊子でルソーは、田野で暮らすならば、地震によって殺されることはなかりうと述べた。ヴォルテールはリスボン地震をきわめて深刻に受け止め、軽妙な諷刺小説『カンディード』で挿話のひとつに組み入れたが、ルソーの見解にはいささか冷淡な対応を示している。」①

① Charles F. Richter, *Elementary Seismology*, New York, 1958, p.105.

この大震災についてはモレイラ・デ・メンドンサ著『世界地震通史―リスボン大地震』など同時代の証言と記録が多々遺され、五年後イギリス王立協会で発表されたジョン・ミツシエルの論究は、震動の自然的要因を解明し、地震学誕生に至るひとつの契機とされる。王権による直後の罹災調査が一九一九年ペレイラ・デ・ソーサの浩瀚な著作、『一七五五年十一月一日ポルトガル地震―人口学的研究』として集成されたが、チャールズ・ダヴィソンの著書『大地震』に代表されるように、二十世紀前半はおおむね地震学など自然科学的な検証に重点が置かれていた。しかし、大地震から二百年を経た一九五五年、イギリスの研究者T・D・ケンドリックによって先駆的な著作『リスボン地震』が刊行され、論究の範囲が地震の規模や被害の状況だけでなく、政治、経済、宗教、思想、文学、美術、建築への影響にまで拡大される。さらに震災後の復興事業を主題として綿密な研究『啓蒙の都市―ポルトガルのリスボン』が、一九六五年フランスの歴史学者ジョゼ・アウグスト・フランサによって達成された。

しばらく時を隔てて二〇〇五年、大地震二五〇周年の記念事業としてオックスフォードのヴォルテール研究所で論集『一七五五年リスボン地震―表出と反応』が企画され、これには編者テオドール・ブラウンのもとにポルトガル、スペイン、フランス、イギリス、スイス、チリなど六カ国の研究者が寄稿した。また、以後数年の間に欧米諸国でそれぞれ特色ある著作や論文が公開されている。ロンドンでは在留イギリス人の証言を主体としたエドワード・バイス著『神の怒り―一七五五年リスボン大地震』、パリでは文学作品や自然科学への影響をも分析したジャン・ポール・ボワリエ著『リスボン地震』、マドリッドでは膨大な調査記録を集録したJ・M・マルチーヌ・シユアレス著『リスボン地震のスペインへの影響』、アメリカ合衆国では物語の叙述を加味したニコラス・シユラデイ著『最後の日―リスボン大地震における怒り、壊滅、理性』などがそれぞれである。これらの研究に

おいては現代社会への意義や警鐘も重視され、リスボン大地震の社会的・思想的震撼は広島・長崎への原爆投下
が世界へ与えた衝撃にも匹敵するとも語られた。^①

ポルトガルではこの間多彩な行事や出版が実現され、絵図や図版を豊富に収めたジョアン・ドゥアルテ・フォンセカ著『一七五五年リスボン地震』、さらにはエレーナ・アルヴァルハオ・ブエスキュほか編『リスボン大地震―さまざまな対応』がとくに注目される。また、二〇〇九年にはリスボンの研究機関を中心に各国から地質学、統計学、建築学、土木工学、構造力学等の専門家八二名が結果し、論集『一七五五年リスボン地震再訪』が刊行され、今後人類がこの大地震から震災の防止と軽減、さらには災害への危機管理について深く学ぶべきことが強調された。^②

これらの著作はすべて東日本大震災の以前に公開されたものであり、日本ではとくに関心を寄せられることはなかった。しかし、二〇一一年三月十一日極東における大惨事は、原子力発電所の壊滅という新たな要素をも含み、その社会的震撼はいまも続いている。

^① Edward Paice, *Wrath of God, the Great Lisbon Earthquake of 1755*. London, 2008, p. xvi.

^② Luis A. Mendes-Victor, Carlos Sousa Oliveira, João Azevedo, António Ribeiro (eds), *The 1755 Lisbon Earthquake*. : Revised, London, 2009, pp. 3-4.